

権利条約集会:被災校舎保存を訴え 宮城・大川小卒業生

毎日新聞 2014年12月06日 19時27分 (最終更新 12月06日 19時35分)

東日本大震災で児童74人と教職員10人が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校の卒業生6人が6日、東京都内で開かれた「子どもの権利条約批准20周年記念集会」に出席し、緊張の表情を浮かべながらも力強い声で被災校舎の保存を訴えた。

当時5年の妹千聖（ちさと）さんを亡くした高校2年の紫桃（しとう）朋佳さん（16）は「あそこに行けば自分が強くなる。生き残った私たちが思いや出来事を伝えていくために、校舎を未来に残す必要がある」。高校1年の成田涼花さん（15）は「自然に囲まれ、にぎやかな学校だった。震災前の色を取り戻し、悲しみだけではなく、思い出が感じられる場所になってほしい」と語った。



被災した校舎を残そうと意見表明した大川小の卒業生たち＝東京都渋谷区で2014年12月6日午後2時53分、佐々木順一撮影

同小校舎は地元住民に撤去を求める声もあり、県や市の震災遺構保存の検討対象には入っていない。【百武信幸】